

平成 30 年度在宅療養連携会議 第 4 回全体会議 会議録

1. 開催日時 平成31年 2 月25日（月）午後 7 時00分～ 9 時 5 分

2. 開催場所 ウェルシティ市民プラザ 3 階 保健所第 1 研修室

3. 出席者 【構 成 員】千場 純、磯崎 哲男、西山 和彦、塚本 久美、豊田 茂雄、
上田 尚、柏木 孝子、諏訪部 弘之、亀田 浩司、向井 洋子、
佐野 美智子、吉野 桂、毛利 智恵、小貫 朗子、田中 知己、
川名 理恵子

（敬称略、名簿順）

【オブザーバー】健康福祉財団	小澤 充
横須賀市社会福祉協議会	稲葉 抄子、小山 由紀
横須賀市薬剤師会	三浦 健太
福祉部介護保険課	鈴木 享

【事 務 局】健康部地域医療推進課 竹本 豊、箕崎 真吾、小知和 千弘

【傍 聴 者】3 名

4. 開 会 座長の司会で開会した。

5. 傍聴者・配布資料の確認、報道機関取材の紹介

事務局から、欠席者の報告、オブザーバーの紹介、取材者の紹介、傍聴人数の報告、及び配布資料の確認を行い、その後、取材者の参加許可を得た。

〔資料一覧〕

次第

- 資料 1－1 平成30年度在宅療養シンポジウムアンケート結果
- 資料 1－2 平成31年度のシンポジウム、在宅医療・介護の見本市開催概要（案）
- 資料 2 平成30年度多職種連携のためのセミナー（介護保険）アンケート結果
- 資料 3－1 平成30年度介護職のための在宅療養セミナー開催実績
- 資料 3－2 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー
第3回トピック講座アンケート結果
- 資料 4 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況
- 資料 5 平成30年度センター連携拠点事業進捗状況
- 資料 6 平成30年度ブロック連携拠点事業実績
- 資料 7－1 多職種連携セミナー（残薬問題）チラシ
- 7－2 医師のための在宅医療セミナーチラシ
- 資料 8 平成23～31年度在宅医療・介護連携推進事業一覧

- 資料 9－1 在宅療養連携会議設置要綱
- 9－2 横須賀市在宅療養連携会議構成メンバー推薦書
- 資料 10－1 訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可について
- 10－2 訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可事務の簡素合理化について
- 報告資料 「よこすか栄養まつり～元気なからだは食事から～」 チラシ

6. 議題

1) 各専門部会からの報告

(1) 広報啓発検討専門部会 Aチーム

川名部会長から「みんなで支える在宅療養シンポジウムアンケート集計結果」、「平成31年度のシンポジウム及び在宅医療介護の見本市」について、資料1－1、1－2に基づき報告があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①みんなで支える在宅療養シンポジウムアンケート集計結果について（資料1－1）

石飛幸三先生をお招きし1月27日に在宅療養シンポジウムを開催した。

パネルディスカッションのコーディネーターとして千場先生に協力いただいた。また、当日ご来場いただいた構成員の方、お礼申し上げる。報告資料として、アンケートを添付する。

当日は約300名の参加があり、アンケートは178名から回収を得た。

Q3、Q4を見ていただくと、内容について「よく理解できた」、「とてもよかった」という回答が7割以上であり、概ねご満足いただけたものと思う。

特に基調講演は約9割の方が「よく理解できた」と回答されており、後半の自由記述欄の回答からもわかるとおり、講師の石飛先生にはとてもわかりやすく講義をしていただいた。

Q6ではリビング・ウィルの認知度を聞いた。およそ6割の方が「意味を含めて知っていた」と回答している。昨年はアンケート回収165名のうち約5割の方が「意味を含めて知っていた」と回答しているため、少しずつ認知度が上がっていると考えられる。ただし、シンポジウムにご来場の方は、関心の高い方なので、一般に比べると高い割合なのではないかと思われる。

Q7では療養場所の希望を聞いたが、およそ5割の方がご自宅を希望している。

さらにQ9では、療養場所を「病院」「施設」と選んだ方に、その理由を聞いたが、半数以上の方は家族への負担を心配されていることがわかる。シンポジウムに参加していない人にアンケートを取るのと同じ傾向が出ている。

Q10では、地域の中で暮らしていくために必要なことを伺った。最も多かったのは、在宅医療・介護の制度の充実だったが、昨年に引き続き、近所づきあいや、住民同士の助け合いが必要との回答も多かった。

Q11からは参加者自身のことを伺った内容だが、一般市民の方に多く参加していただけた。年代としては、60代以上の方のご参加が多いが、3名の10代の方にもご参加いただいた。

後ろには自由記入の回答を添付した。基調講演が非常にわかりやすかったという好評価をいただいた。

②平成 31 年度のシンポジウム及び「在宅医療・介護の見本市」について（資料 1－2）

前回の全体会議で話があった、「在宅医療・介護の見本市」について、来年度のイベントということで在宅療養シンポジウムも含め A チームで検討したので報告する。

「在宅医療・介護の見本市」は平成 24 年度（2012 年度）の 3 月 23 日（土）午後に、厚生労働省の在宅医療連携拠点事業として横須賀市医師会、衣笠病院、横須賀市の共催で開催した。

在宅医療、在宅介護が市民のみなさまに浸透していないことから、自宅で療養できるということを理解してもらうため、様々な職種が在宅療養にどのように関わっているのか、在宅療養ではどのようなことができるのかということを分かってもらうために、ここに参加していただいている各団体にブースを出展していただいた。例えば医師会は往診バッグの中身を展示。歯科医師会は在宅に持っていく診療道具を展示していただいた。また、ミニレクチャーとして認知症や薬などの話しをしていただいた。その結果、約 500 名の来場があった。

この前回の開催概要をもとに検討した結果、資料 1－2 の開催概要（案）のとおり、2 つの案となった。

（案）1 は、講演会と見本市を同日開催するものである。講演会は 5 階のホールで実施し、ブース出展を 7 階で行なう。また、向かいの部屋でミニレクチャーを行なう案である。

（案）2 は、平成 24 年度に実施した見本市のみ開催をするイメージで、講演会の代わりにミニレクチャーの数や内容を充実させる案である。

開催時期は 3 月下旬の土曜日又は日曜日と考え、仮予約として総合福祉会館の 5 階ホールと 7 階を、3 月 15 日（日）、22 日（日）、28 日（土）の 3 日間仮押さえしてある。総合福祉会館の 2 階は基本的には貸し出さないとされているが、2 階でも何かできないかという検討をしている。

参加団体は、在宅療養連携会議の構成団体、司法書士会、弁護士会及び周辺団体を想定している。

運営方法は実行委員会方式が良いと考えている。

費用は、市がシンポジウム用に予算要求している約 50 万円があり、振り替えられるとしたらこの額となる。これ以上については参加する各団体に負担金としていただくことになる。

概要は以上になり、後ほど本日の議題として各団体のご意見をいただきたい。

〔質問、意見等〕

塚 本：在宅療養シンポジウム当日、資料配布をしていた際、「友人がインフルエンザで来られなくなった。資料だけください。」と話される方が多かった。季節のいい時期に開催できるといいと思った。

川 名：最初に開催したときは秋口に開催したが、市内のイベントが多く会場がなかなか取れない状況だった。1 月下旬頃になると、イベントも少なくなり、この時期に開催するようになった。今年はインフルエンザがかなり流行していたため、来られなく

なった人が多くなったのだと思う。これからシンポジウムに代わる企画案を説明するが開催時期も考える必要がある。

(2) 連携手法検討部会 Bチーム

磯崎部会長に代わり事務局から多職種連携セミナー(介護保険) アンケート集計結果、退院前カンファレンス実施状況調査、多職種合同研修会について資料2に基づき報告があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①多職種連携セミナー(介護保険) アンケート集計結果について(資料2)

11月15日に実施した介護保険の多職種連携セミナーのアンケートを集計したので、参考に配布してある。

参加者数 149人、アンケート回収数129人、回収率 86.6%であった。

アンケートでは、Q2研修の内容について「とても満足」「まあ満足」合わせて86%と高い結果が出ている。

Q3の感想では、「介護保険に関しては理解が深まった、もっと知りたい。」などがあった。

②退院前カンファレンス実施状況調査

調査方法について検討して、アンケートを実施することとした。

アンケートでは、連携状況を把握するために、カンファレンスの実施状況や過去からの開催状況の変化、カンファレンスシートの利用状況などについて調査する。

アンケート対象や項目などは、今後Bチームで検討を行う。

③多職種合同研修会について

新年度の多職種合同研修会について検討した。

開催予定日は6月13日(木)または20日(木) 19:00から実施する。会場は例年同様、生涯学習センター大学習室とする。

内容は「事例検討」または「エチケット集の見直し」として検討している。

日程やテーマ名称、その他の詳細は、今後Bチームで検討を行う。

〔質問、意見等〕

諏訪部：多職種連携セミナーの実施報告は医療職にも介護保険のことを知ってほしいといった内容のセミナーで良かったか。

事務局：医療職を対象として開催した。ケアマネジャーにアンケートを取った際に介護職に医療の知識を得てもらうだけではなく、医療職に介護保険のことを知ってもらいたいという意見を受けて企画・開催した。

(3) 研修・セミナー検討専門部会(Cチーム)

諏訪部部会長から「平成30年度介護職のための在宅療養セミナー開催実績」等について、資料3-1、3-2に基づき報告があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①ケアマネジャーのための在宅療養セミナー実績報告（資料３－１、３－２）

年３回のトピック講座、基礎講座を企画し、すべての講座が終了した。

前回の全体会議で、トピック講座第２回までの結果については報告済みである。

第３回トピック講座は、横須賀市消防局救急課の職員を講師として、心肺蘇生法講習会として実施した。

通常の心肺蘇生法講習会の内容だけでなく、高齢者の予防救急に着目した内容なども実施した。

募集６０名のところ２４名の参加があった。参加者数が少なかったのは反省が必要なところである。

受講者には、普通救命講習修了証を配布するため長い時間となってしまった。

受講者は少なかったが、受講者アンケートを見ると好評で、満足度が非常に高い研修となったことがうかがえた。

今後は、各回のアンケート結果を参考に、来年度のセミナー内容を企画していく。

②ヘルパー対象の介護職のための在宅療養セミナー開催経過について（資料３－１）

ヘルパー対象のセミナーは、横須賀市健康福祉財団が主催（横須賀市と共催）し、全３回が終了した。

第３回は、横須賀共済病院 腎臓内科部長 田中 啓之医師を講師として、人工透析をテーマに開催され、７３名の参加があった。

今後も横須賀市健康福祉財団が主催であるが、企画内容については、Ｃチーム内でも一緒に検討を進めていく。

〔質問、意見等〕

なし

２）平成３１年度のシンポジウム及び「在宅医療・介護の見本市」について

事務局から資料１－２に基づき、「在宅医療・介護の見本市」及び開催概要（案）について説明を行い、在宅療養シンポジウムの代わりに（案）１の「講演会と見本市」を「総合福祉会館」で開催すること。運営方法を「実行委員会方式」とすることが承認された。また、各構成員は「講演会と見本市参加の意向」「開催日」「負担できる費用」「実行委員会参加の意向」について、各団体に持ち帰り確認することとし、次回の連携会議に持ち寄ることを確認した。

〔説明要旨〕

先ほど、Ａチームから報告いただいたが、来年度に「在宅療養シンポジウム」と「在宅医療・介護の見本市」について、どのように実施して行くかということについて検討いただいた。資料の上段が、平成２４年度に実施した「在宅医療・介護の見本市」の概要、下段が平成３１年度開催についてのＡチーム案となっている。

案１、案２ともに見本市は開催するものになっている。違いは、シンポジウムの基調講演を小さくした講演会を実施するかどうかである。講演会を行わない見本市のみの案２の場合は、ミニレクチャーを手厚くするという意見も出ている。

ここで、協議いただきたい点として、開催方法から費用負担についてとなる。

- ①開催方法は「講演会＋見本市」又は「見本市のみ」。
- ②開催時期は3月下旬の土日のうちの1日。会場候補となっている総合福祉会館を3月15日（日）、22日（日）、28日（土）の3日間押さえている。他の土日は予約が入っていた。
- ③開催する時間は何時頃からの良いか検討していただきたい。お昼を挟んで開催しても良いのではないかという案も出たが、食事のために外に出してしまうと帰ってしまうことが考えられるので、来場者には早お昼を取ってから来てもらうことを想定し、お昼より少し前から開催して少し長めに時間を設けるということも案が出ている。
- ④内容についてミニレクチャー、ブース展示、物品展示、相談コーナーほか意見をいただきたい。
- ⑤運営方法について、Aチームだけでは難しいという意見があり、連携会議構成員以外の人を募ったり、実行委員会方式が良いのではないかという案が出ている。
- ⑥費用負担について、市が約50万円となっているのは、あくまでも在宅療養シンポジウムを開催するために予算要求しているものである。違う用途に使うとなれば色々な手続きが必要となるが、用意できるとしたらこの額となる。あとは、各団体が負担できる金額を協議いただきたい。

〔質問、意見等〕

座 長：今回、方向性だけでも決めておきたい。方向性としては、見本市を実施する、実施しない。またはシンポジウムをそのまま実施する。といったところである。何かネガティブな意見はあるか。

（ 意 見 な し ）

塚 本：会場候補の総合福祉会館5階ホールは何人入るのか。

川 名：椅子だけの用意で400名入ることができる。

塚 本：華となる講演会は、集客効果があるため、講演会はあったほうが良い。

この時期のショッパーズプラザの工事の状況が気になる。また、県立保健福祉大学や地元の高校生、小学生などに参加を募るといった開催方法を探れないか。

2階を借りることができるのなら、子どもも一緒にできる介護予防の体操や高齢福祉課作成のDVDを流しておくコーナーを作り、貸し出しにつなげる。ブース出展は各団体が工夫することが必要。一般の人は介護用品をよく見たことがないため、実物が見られると良い。訪問入浴を実際に組み立てて展示、介護ベッドなどの展示は良いと思う。参加団体候補だが、司法書士を呼ぶためには行政書士と調整が必要である。

座 長：駐車場の問題もあるため、ショッパーズプラザの事業者と連携できたら良い。

この時期に県立保健福祉大学のイベントに重なることはないか。

総合福祉会館を仮予約できている3日間のうちどの日が候補となるか。開始時間も検討が必要だがこれは、今後決めることとしても良い。

まずは、何をやるかということを決めたい。

川 名：総合福祉会館のほか、従来の在宅療養シンポジウム用にヨコスカ・ベイサイド・ポケットも仮予約している。まずは、従来のシンポジウムを開催するのか、見本市を中心に開催するのか方向を決めたいと思っている。

見本市を中心にするなら、行政だけでは開催できないため各団体に参加していただきたい。

諏訪部：在宅療養シンポジウムは実施しないということか。

川 名：市の予算が少ないため、見本市を開催するなら、在宅療養シンポジウムは実施できない。

豊 田：会場費はいくらかかるのか。

事務局：総合福祉会館の利用なら無料である。ただし、出展用のブースをパーテーションで設営するのに、20ブース設営で費用に約40万円かかる。

豊 田：千場先生に講演していただき、あまり費用がかからないようにしてはいかかが。

川 名：シンポジウムのアンケートに地元の医師の話を聞きたいという意見もある。

座 長：広報しても知っている人がすごく少ない。今まで以上に広報に重点を置いて、来た人が楽しめるフェスティバル的な要素を盛り込みたい。地域包括ケアシステムが浸透していないため広く知らせる機会としたい。

座 長：案1の講演会と見本市の開催という意見だが対案がなければ、講演会と見本市の開催ということとするがどうか。

（ 意 見 な し ）

座 長：対案の意見がないため講演会と見本市の開催とする。この方向に基づき分科会又は実行委員会形式で具体化していくこととする。

各団体持ち帰って、参加の意向、協賛金の額は検討していただく。

西 山：開催日だが、土曜日の参加は難しい。歯科医師は土曜日診療所を開いている。開催するなら日曜日となる。

豊 田：3月22日は3連休の日曜日となる。

座 長：3連休を良いと捉えるかどうかである。学校の卒業式はいつ頃か知っているか。

向 井：3月中旬が卒業式ではないか。

塚 本：薬剤師会も同様に土曜日に開店しているところが多い。

座 長：そうしたら日曜日の開催の方向となる。

座 長：実行委員の募集について何か具体的な案はあるか。

川 名：特に案はない。

座 長：みこしパレードなどは実行委員会形式ではないか。同じように民間に協賛金を呼び掛けられないか。

川 名：みこしパレードは商工会議所、観光協会が実行委員に入っている。

見本市の出展には民間企業に入ってもらって良い。前回は有料老人ホームの団体や介護用品の事業所が参加している。

Aチームに加え他チームの構成員で企画概要を考えてから実行委員会に移行することを考えている。

座 長：実行委員会方式をとることについて、各団体何か意見はあるか。

（ 意 見 な し ）

座 長：意見がないので実行委員会方式をとることとする。

川 名：実行委員会には、企画等の相談をさせてもらうことをイメージしている。

座 長：平成31年度第1回全体会議に各団体の意向を教えていただくこととする。

塚 本：負担する金額について、自分たちのブース設営に係わるお金だけでいいのか。協賛金のようなものを考えていたほうが良いのか。

事務局：決まっていない。両方考えておいてほしい。

川 名：他のイベントだが、負担金は1団体7,000円で、パーティーは借りずに運営しているところもある。

座 長：イベントとして考える。全体に対しての協賛と自分たちの発表を持ち込むための参加費という両方の考えがある。各団体に協力してほしい。

向 井：この見本市は今後も続けていくのか。または来年度1回のみの開催なのか。毎年開催するようなら栄養祭りの時期をずらさないといけない。栄養士会の会員は100名程度のため予算が少ないため考えないといけない。

川 名：Aチームでは継続して開催するかどうかまでは検討していない。見本市には栄養士会にも参加していただきたい。

向 井：持ち帰って栄養士会で検討する。

川 名：Aチームでは、栄養士会が参加することを想定した場合、調理室がある6階も必要だという話も出た。一緒にやっていただけたらと思う。

座 長：集客力はみんなでやったほうが大きい。関連事業であるため、お互いに一緒に開催するメリットがある。1回テストケースのように開催してみて、結果が良ければ毎年の行事にするのも良い。

事務局：シンポジウム用にヨコスカ・ベイサイド・ポケットを1月に仮予約している。これをキャンセルしても良いか。

座 長：Aチームではヨコスカ・ベイサイド・ポケットと産業交流プラザで開催するという意見もあったが会場借り上げ費用がかかるため総合福祉会館での開催案となっている。予算を抑えるために総合福祉会館で開催することを決めてしまうか、何か意見はあるか。

磯 崎：産業交流プラザを借りるのにどの程度費用がかかるのか。

川 名：時間単位の借り上げとなり、全館借りるとなるとそれなりの金額となる。

塚 本：総合福祉会館で会場費にお金をかけず、広報に力を入れるというのはどうか。

座 長：では、お金をかけない方向で、総合福祉会館で実施することとする。

座 長：今の意見を基に来年度Aチームで検討してもらおう。各団体には「講演会と見本市参加の意向」「開催日」「負担できる費用」「実行委員会参加の意向」について、新年度の第1回全体会議に持ち寄れるよう検討をお願いする。また、広報に力を入れるため、会場費をかけず、総合福祉会館で実施することとし、1月に仮予約しているヨコスカ・ベイサイド・ポケットはキャンセルすることとする。

3) 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告

事務局から資料4～7に基づき、各種事業の進捗状況について説明を行い、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①多職種連携セミナー（資料4）

1つ目は介護保険セミナーを11月15日に開催した。

横須賀市介護保険課職員と、居宅介護支援事業所連絡協議会副会長の小林様に講師をしていただき、149 名に参加いただいた。

2 つ目は認知症セミナーを 2 月 15 日に開催した。

神奈川県保健福祉大学 リハビリテーション学科 作業療法士の小河原先生に講師をしていただき、104 名に参加いただいた。

この認知症セミナーは、高齢福祉課と協力して開催している。今後も福祉部と連携をとって、効果的な企画を行っていききたい。

②みんなで支える在宅療養シンポジウム（資料 4）

1 月 27 日に開催した。基調講演講師に石飛幸三先生、パネリストに野村内科クリニックの野村先生、興寿苑訪問看護ステーションの後藤様、衣笠病院グループのチャブレン大野様、横須賀市地域医療推進課長の川名、コーディネーターに三輪医院の千場先生にご登壇いただいた。当日は 300 名の方々に参加いただいた。

③病院職員対象在宅療養出前セミナー（資料 4）

今年度の実施状況は、3 件となっている。前回の会議で申込みを受けていることを報告していた、湘南病院で実施し、61 名の参加があった。

病院職員対象在宅療養出前セミナーの延べ参加者が 143 人となった。

また、申込を 2 件、①うわまち病院 ②横須賀共済病院から受けている。

④ 在宅医同行研修（資料 4）

医師会から 12 名の先生に講師として協力いただいている。

本研修の実施状況は 8 件、9 名の方に研修を受けていただいた。

受講者の職種は、前回までの医師、看護師に加え、はじめて、歯科医師、歯科衛生士の方に受講していただいた。

今年度から対象を拡大した病院勤務コメディカルの参加はない。

本研修については、来年度から歯科医師会、薬剤師会あてにご案内させていただく。

興味を持たれた方がいたら、地域医療推進課に連絡いただけるようお願いする。

⑤まちづくり出前トーク（資料 4）

市の職員が申込者のもとへ伺って話をする出前トークは、2 月までに 18 団体で実施し、454 人の参加があった。3 月に、1 件の申し込みを受けている。

⑥在宅療養センター連携拠点事業進捗状況（資料 5）

1. 多職種合同研修会については、前回報告したとおりである。

2. 街角在宅医療講座については、医師会の医師が講師となって町内会等に伺うものである。2 月 21 日までに 5 回実施され、232 名の参加があった。

3. 病院長会議は 10 月 3 日に開催した。

4. 5. の各システムの運用状況は、資料のとおりとなっている。

6. ブロック連携拠点情報交換会は 11 月 28 日に開催した。

7. 「よこすかりんくパスポート」は、1,000 部増刷している。

8. 市民公開講座は、平成 31 年 2 月 23 日（土）に開催した。長尾クリニック院長の長尾和宏様を講師として招き、認知症をテーマに講演いただいた。参加者人数は 170 人（スタッフ含め 181 人）となった。

⑦在宅療養ブロック連携拠点事業進捗状況（資料 6）

資料 6、これまでの各ブロック拠点の活動についてまとめている。

⑧その他（資料 7－1、7－2）

資料 4 に基づき、今後の予定について以下の 2 点報告があった。

- （1）残薬問題に関する多職種連携セミナーを平成 31 年 3 月 13 日（水）、19 時から開催する。場所は、生涯学習センター大学学習室を予定している。講師は横須賀市薬剤師会の中村様にお願いしている。講義とディスカッション形式の研修となる。
- （2）医師のための在宅医療セミナーを平成 31 年 3 月 20 日（水）19 時 30 分から開催する。場所は、生涯学習センター第 1 学習室を予定している。
講師は神奈川県警察本部の田中様と久里浜医療センター精神科の永田医師にお願いをしている。講義形式の研修となる。

〔質問、意見等〕

塚 本：3 月 13 日（水）の残薬問題に関する多職種連携セミナーに申し込みがあるのは、ケアマネジャーと薬剤師がほとんどとなっている。ヘルパーには是非参加してほしい。残薬についてみなさんに知ってほしい。多職種の方々に処方薬のルールを理解してほしい。残薬の使用について、薬剤師が判断し医師の指示を得て実施するものであることを理解いただきたい。セミナーには質問に答えられる薬剤師を 30 数名用意している。是非皆さんから参加のお声掛けいただきたい。

座 長：申し込みに診療所の看護師や訪問看護師はいるのか。

塚 本：訪問看護師の申し込みはない。

川 名：施設も残薬が多いのか。

塚 本：多いと思う。施設によって薬剤師が入ることができないところがある。例えば、グループホームには入れるが、老人保健施設は入ることができない。

川 名：ということは、施設職員にも残薬問題を理解してもらう必要があるということか。

塚 本：その通り。是非施設の職員にも参加してほしい。

座 長：みなさまには、今のことを解説して周知していただきたい。

4) 平成 31 年度事業予定について

事務局から資料 8 に基づき、来年度の各種事業予定について説明を行い、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

No. 18 の在宅医療・救急医療連携における検討会は、高齢者の救急搬送が増加する中で、在宅で最期まで療養することを希望している患者が急変した際に、本人の意思に沿わない救急搬送が増加することが懸念されている現状を受け、在宅医療関係者や消防機関、救急医療機関と

の間で、患者の病状や希望する療養場所、延命治療に対する意思などの患者情報を共有し、共通認識を持てるように連携体制を構築することを目的に平成 29 年度末からスタートしている。出された課題に対し解決策を検討していきたいと考えている。今後、警察の方も加わっていただき検討していく。

No. 25 のリビング・ウィルについては、現在、シンポジウムやまちづくり出前トークなどの機会を利用し、リビング・ウィルの考え方や、記入時の注意点等を直接説明して渡している。このリビング・ウィル含め、No. 23、No. 24 の在宅療養ガイドブックの増刷を予定している。増刷するに当たり、変えたほうが良い部分があればご意見をいただきたい。

これらの事業予定は、予算に連動するものとなるので、最終的には議会の議決を得て決定するものである。現状では事務局の構想ということで、ご理解いただきたい。

〔質問、意見等〕

座 長：冊子物の配布の効果はあるのか。デッドストックとなっていないか。

事務局：在宅療養ガイドブックは診療所などからの要望で 100 部送ったりしているが、純粋に配布していただいていると考えている。

座 長：置いておくだけだと持っていかれなくもったいない。各団体はどのような状況か。

川 名：在宅療養ガイドブックは配架しているが、リビング・ウィルは直接説明し手渡しをしている。

塚 本：在宅療養シンポジウムで配布した後、批判的な意見は来ているのか。

川 名：批判的な意見は来っていない。

5) その他

事務局から資料 9・10 に基づき、在宅療養連携会議構成員改選及び訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可について説明を行い、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

1) 在宅療養連携会議構成員改選について

資料 9－1 の在宅療養連携会議設置要綱第 2 条第 3 項にあるように、この在宅療養連携会議の構成員の任期は 2 年と規定されている。また、構成員の今期の任期は、平成 31 年 4 月 30 日までとなっている。新年度は改選期にあたるため、新年度となる 4 月に資料 9－2、各団体あてに構成メンバー推薦書を送付し、改めて構成員の推薦をお願いする。なお、構成員の交替がない場合においても改めて推薦をいただくことになる。

新年度の第 1 回全体会議の日程調整も構成員推薦のお願いにあわせて行う。第 1 回全体会議は 5 月中旬～下旬の開催を考えている。

2) 訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可について（資料 10－1、10－2）

訪問診療等に使用する車両の駐車許可に関する周知依頼の通知があったので、お知らせする。

資料 10－1 が警察庁から厚労省、厚労省から各自治体あての通知。資料 10－2 が、平成 26 年の警察庁から各都道府県警への訪問診療等に使用する車両の駐車許可事務の簡素合理化に関する通達である。

資料 10－1 の 3 枚目、破線で囲まれている部分が周知内容である。訪問診療等に使用する車両が、駐車場所がなく駐車禁止場所に駐車せざるを得ない場合は駐車許可を受けることができること。また、1つの駐車許可で一定期間、複数の場所に対応できるように手続きを簡素化して申請者の負担軽減を図っていることなどとなっている。

通知の内容は、資料 10－2 の平成 26 年 2 月の警察庁からの通達によって、各都道府県警においては、「訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可事務の簡素合理化」を図り、申請者の負担軽減に努めてきたその取組みが、医療・介護関係者へ十分に周知されていないのではないかと意見、要望を受けて、厚労省を通じて再度の周知がきたものである。

実際に、横須賀警察の交通課に問い合わせ、この再度の通知を受けての許可申請手続きに変更はないことを確認した。

資料 10－2 の通達の内容は、高齢化社会の進展に伴って、在宅での医療、介護サービスが 24 時間体制で実施され、重要性が増す状況にあるため、駐車許可事務の簡素合理化を図り、申請者の負担軽減に努めなさいというものである。

実際にどのように簡素合理化するのが、3 の検討事項からになる。

- (1) 駐車日時の特定では、用務の性格上、緊急の場合があることを踏まえて柔軟な対応をすること。
- (2) 駐車場所の特定については、訪問先を一覧などにより特定した上で、「訪問先付近」として許可するなど柔軟に駐車場所を選択できるようにすること。
- (3) 申請書類の簡素化については、アの周辺の見取り図では、道路幅員や車両寸法は記載させずに、既存の地図に訪問先の位置が示されている書面で差支えないとしている。

イの病名が記載された書面については、個人情報保護の観点から提出は求めないとなっている。

エの訪問先を追加する場合の提出書類については、許可期間内における訪問先の追加は、追加する訪問先の駐車場所と周辺の見取り図の提出のみで対応することとし、新たな訪問先の一覧の提出は求めないこととなっている。

(4) 申請手続きの合理化では、複数の警察署管轄にまたがる場合でも、申請の受理などを一つの警察署で行うことができるとしている。横須賀警察でも田浦署管内のものも受けるが、審査等は横須賀署から田浦署に送って行うため時間がかかることであった。

横須賀市からは、この件について、平成 28 年度より、医療と介護の関係者の患者、利用者訪問時における車両については、駐車許可ではなく駐車禁止除外になるよう神奈川県へ要望をしている。

〔質問、意見等〕

諏訪部：実際には個別に警察に確認したほうが良いと思う。

事務局：最終的には個別に聞いていただくことが望ましい。

座 長：駐車禁止除外になったということか。

事務局：あくまでも駐車許可である。本来なら、車 1 台につき 1 申請となっているが、簡素合理化しているということである。

座 長：現在の訪問診療の実情に即していない。駐車許可申請の業務自体が医療では大変手間がかかることである。

事務局：申請上の手間の簡素化であって、審査の可否とは違う。

磯 崎：訪問先はどんどん変わるため包括的な駐車許可があると良い。

川 名：そういう実情があると聞いているため、神奈川県に対し駐車禁止除外を要望した。

座 長：訪問看護師が駐車許可申請を出しても、住民が警察に通報したら駐車違反を取られる事例を聞いている。在宅医療・介護の現場寄りになってくれると良い。

7. 報告事項

横須賀地区栄養士連絡協議会主催の「よこすか栄養まつり」について、向井構成員より報告資料1に基づき紹介された。

〔説明要旨〕

3月23日（土）10時30分からヴェルクよこすか6階で開催する。食事の大切さが伝わる、子どもから高齢者まで楽しめる内容となっている。また、フレイルを身近に感じてもらえる測定や、講義・講演により災害のことや介護食、オーラルフレイルなどについて紹介する。ぜひ各団体の会員に周知をお願いしたい。横須賀市薬剤師会、横須賀市歯科医師会にも協力いただいている。

8. その他

在宅療養連携会議構成員の職種追加について、意見交換の結果、提案のあった病院勤務看護師の団体となる看護協会と司法書士会の2団体について、事務局で調整し検討を行うこととなった。

〔質問、意見等〕

座 長：生活福祉課など市役所で関係する部署はあるか。

磯 崎：認知症に関連する部署はどこか。

事務局：既に構成員となっている高齢福祉課である。

座 長：弁護士や司法書士が在宅に係わっている。

田 中：福祉部には成年後見制度に係わる会議が別にある。

塚 本：別の会議になると、別の物になってしまう。

リビング・ウィルとは違うが、法律のことは欠かせない。

座 長：法律のことを相談できるメンバーがいると良い。

磯 崎：在宅療養以外の話題も出るため、在宅療養に必要だという理由でメンバーを増やし、違う要件も聞ける体制にしておいたほうがいいのか。メンバーに追加する候補としたら、弁護士、行政書士、病院勤務看護師がいいと思う。

座 長：事務的なことは分科会で実施しているため、全体会議にゲスト枠を設けても良いし、メンバーを増やすのも良い。相談できる人が参加してもらえるようになると良い。

川 名：ゲスト枠を設けるなど、会議の仕組みについては即答できない。

座 長：構成員の追加候補は弁護士、司法書士、行政書士、病院勤務看護師で良いか。

豊 田：病院勤務看護師を構成員に追加するのはいいと思う。

諏訪部：在宅療養連携会議としては広げすぎとなるのではないか。

座 長：臨時に参加してもらおうというのも考えられる。

川 名：テーマがあれば呼ぶのも良いと思うが、テーマがなくただ呼ぶだけとなると難しい。追加候補として、看護協会なら意味があると思う。

磯 崎：ゲストより毎回参加してくれたほうが良い。困難事例があることや大枠として法の専門家がいないため弁護士がいると助かる。候補としている構成員を追加しても、専門部会にメンバーはそれほど増えないから大丈夫だと思う。司法系1人、看護協会1人、他1人。いろんなことができる。

座 長：一般の人の代表をそろそろ入れても良い時期ではないか。選考や公募、町内会長の代表などである。

諏訪部：理学療法士会は来ているが、作業療法士が来ていない。

事務局：作業療法士はそろそろ団体ができそうだと聞いているが、まだ団体ができていない。

川 名：追加候補は看護協会と司法書士会で良いか。

座 長：追加候補とするのは、意見のあった看護協会と司法書士会として良いか意見はあるか。

（ 意 見 な し ）

座 長：それでは、在宅療養連携会議構成員に追加する職種の候補を、看護協会と司法書士会の2団体とする。

9. 閉 会 座長の宣言で閉会した。

この後専門部会に分かれて会議を行った。

以上